

## 事例6 学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの参画

### 「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」の事例

- 学年 第3学年
- 主な内容 学級生活の充実を目指し、他者と協働して取り組む学級活動の展開
- 事例のポイント
  - ①実践を意識した話し合いにするために、議題の提案理由を明確化する。
  - ②合意形成を図るために、話し合いの状況を学級全体が理解しやすいよう板書を工夫する。
  - ③生徒一人一人の当事者意識を高めるために、学級活動委員への事前指導と、全体指導を工夫する。
  - ④生徒の自治的能力を育成できるよう、教師の指導助言のタイミングや方法を工夫する。

#### ICTを活用した主な学習場面

- ・提案理由の提示場面
- ・話し合いにおける共通理解の場面（説明資料の作成）

#### ICT活用の利点

- ①提案理由を大型テレビに提示して集中できるようにし、議題の趣旨から逸脱することなく話し合いを進めることができる。
- ②意見を比べ合う場面でICTを用いて説明を行うことで、生徒がそれぞれの意見を十分に理解した上で、話し合いができる。

### 1 議題 「3年1組の思い出を形に残そう」

### 2 生徒の実態と議題選定の理由

本学級の生徒は、教科等の授業や学校行事に意欲的に取り組んでいる。学力も高く、自分で目標をもって主体的に学習に臨む生徒も多い。大きなトラブルは起きていないが、小さなグループごとにまとまり、人間関係が固定化している傾向がある。また、合唱コンクールや修学旅行における話し合いでは、自己主張の強い生徒の意見に学級全体の総意が流されやすい場面が見られた。

中学校の卒業は、9年間の義務教育修了であり、生徒一人一人がそれぞれの進路へと歩み出すという意味で、極めて大きな節目である。本議題は、「『卒業』をずっと心に残るものにしたい」、「卒業後も学級の全員を思い返せるようにしたい」という生徒の願いから選定された議題である。生徒自身が活動を計画・運営し、全員で協力して取り組み、達成感を実感できるものにしたい。また、そのために、生徒一人一人が自分の意見を明確にもった上で、互いの意見を尊重し、折り合いをつけながら話し合いを進められるよう指導するとともに、実践活動を主体的に進められるよう指導していきたい。

### 3 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 解決するために話し合い、合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係をよりよく形成し、見通しを持ったり、振り返ったりしながら他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとしている。

#### 4 事前の活動

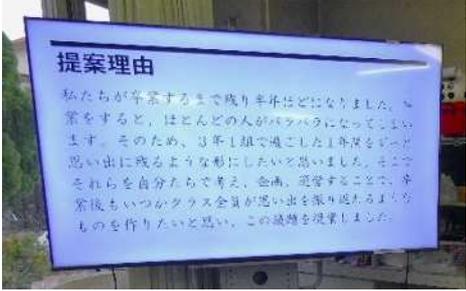
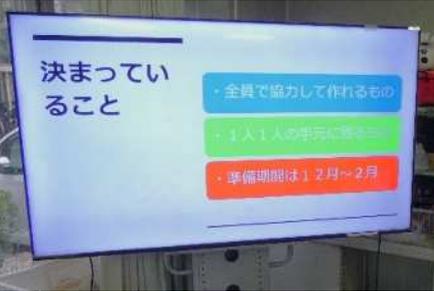
日時	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
1月21日 (昼休み) 学級活動委員	・議題案を選定する。	・クラスの生徒が何をクラスでやりたいと感じているかをよく考えたうえで、選定するよう指導する。	◎よりよい学級生活をつくるために、進んで議題の選定をしようとしている。 【態】(観察)
1月21日 (帰りの会) 学級全員	・議題を決定する。	・全員で決定することで、議題への期待感をもてるようにする。	
1月22日 (昼休み) 学級活動委員 提案者	・議題をもとに今後の活動計画を考える。 ・学級活動委員の中で役割分担をする。 ・提案理由を練り上げる。 ・話し合いのめあてや柱を決定する。	・提案者の思いをもとに学級の実態や解決方法、解決後のイメージを取り入れながら、話し合う必要性を明確にする。	◎学級活動委員としての役割や話し合いの進行的方法について理解している。 【知・技】(観察)
1月27日 (朝の会) 学級全員	・学級会の流れを全体で確認する。	・話し合いの流れについて確認し、話し合いへの意欲を高める。	
1月27日 (昼休み) 学級全員	・今回の議題やめあて、柱を確認し、学級活動ノートに自分の意見を記入する。	・議題やめあてに沿った意見を出すように指導する。 ・記入したノートを回収し、事前に生徒の意見に目を通し、学級会で自信をもって発表できるよう必要に応じて助言する。	◎学級の課題を解決する方法を考えようとしている。 【態】(観察・学級活動ノート)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>事例のポイント③</b> 生徒に柱1の意見を学級活動ノートに書いておくよう指示をする。事前にノート回収し、柱1において、「比べ合う」から始められるようにする。</p> </div>		
1月30日 (放課後) 学級全員	・意見を集約して短冊などの掲示物を作成する。 ・学級会当日に関して最終確認をする。	・学級活動委員が、自分の担当の活動の内容を理解し、各々の役割を果たせるように指導する。 ・板書計画などの確認を指示しておく。 ・質問が出そうな意見に対しては、説明資料を用意しておくよう指示をする。	

## 5 本時の活動

### (1) ねらい

○議題やめあてに沿った話し合いを行い、級友の考えを受け入れながら、全員が納得する形で合意形成を図ることができる。

### (2) 展開

活動の内容	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
1 始めの言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に出された意見を整理して貼るよう、学級活動委員に指示をする。</li> <li>・前向きな雰囲気をつくるため、学級活動委員が自身の役割への意欲を述べて自己紹介するよう事前に指示しておく。</li> <li>・学級全体が取り組む内容であることを伝える。</li> </ul>	
<p>私たちが卒業するまで残り3カ月を切りました。卒業をすると、ほとんどの人がバラバラになってしまいます。そのため、3年1組で過ごした1年間をずっと思い出に残るような形にしたいと思いました。そこでそれらを自分たちで考え、企画、運営することで、卒業後もいつかクラス全員が思い出を振り返れるようなものを作りたいと思い、この議題を提案しました。</p>		
<b>ICT活用の利点②</b>		
5 決まっていることの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「決まっていること(条件)」を全員で共通理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で協力して作れるもの</li> <li>・1人1人の手元に残るもの</li> <li>・準備期間は2月</li> </ul>
6 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がここまでの学級の歩みを思い出せるような写真をまとめたスライドを用意し、画面に映しながら話をする。</li> <li>・卒業してもこの学級で過ごした日々を忘れないでほしい、卒業しそれぞれの道に進んだ後も思い出すときがきてほしい、と</li> </ul>	<p>3年1組で過ごした日々を忘れないようなものを作ろう。</p>
編 P186 指導計画作成の留意事項(2)	<b>事例のポイント①</b> 話し合う必要性やこれまでのクラスの努力等を写真を見せながら説明し、提案理由を補足した。また、実践後のイメージも全体で共有した。	

7 話し合い  
話し合うこと1  
何を作るか決めよう

編 P186  
指導計画作成の留意事項(2)

・事前に「出し合う」をして短冊に書いておき、「比べ合う」から始められるようにする。

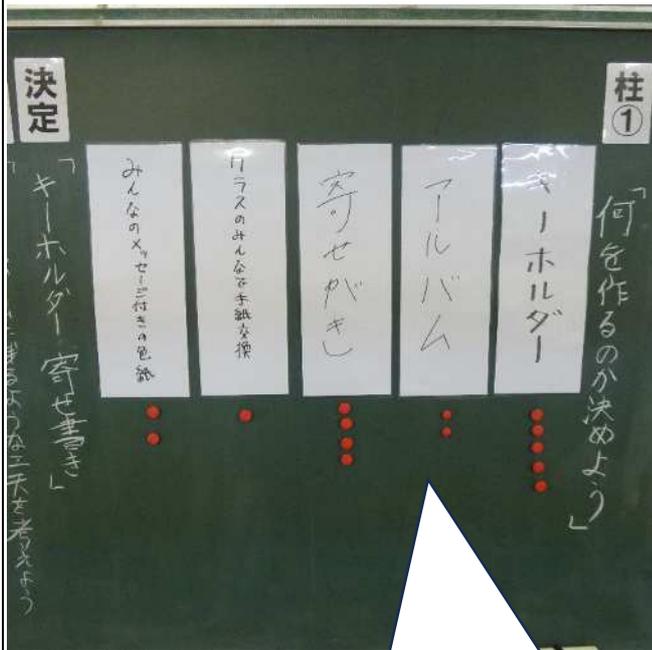
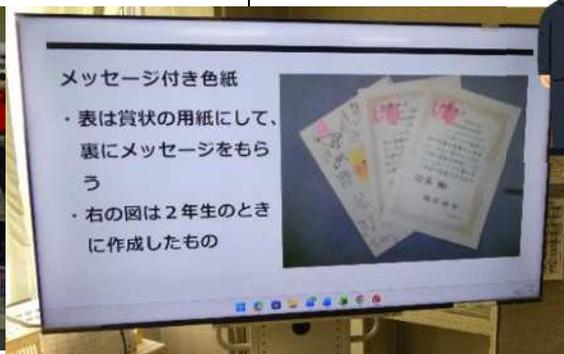
**ICT活用の利点②**

・質問が出そうな意見に対しては、イメージを共通理解できるように説明資料を用意しておくように指示をする。

◎提案理由や実践を踏まえた意見を持ち、仲間の意見を聞きながら話し合いを行い、合意形成をしている。【思・判・表】(観察・学級活動ノート)

私のイメージしたキーホルダーはこれです。

メッセージ付き色紙はこういうものです。写真は去年のクラスで作ったものです。



**事例のポイント④**

級友の考えを受け入れ、すべての意見をやりたいたいという流れになったので、時間的制約があることを助言した。

○決まったこと 話し合うこと①「何を作るか」

- ・キーホルダー
- ・寄せ書き

生徒A：普段なかなか出来ることではないので、みんなへの手紙がよいと思います。

生徒B：去年のクラスで最後にメッセージ付きの色紙をやったら、全員で協力してできて思い出に残ったので、色紙がよいと思います。

生徒C：この2つを上手くまとめれば、寄せ書きに近いものになるので、寄せ書きとしてよいと思います。

司会：なるほど。みんなへの手紙とメッセージ色紙を合わせて、寄せ書きにしてくださいですか。

学級：(拍手)

司会：では、寄せ書きとして1つにまとめます。

生徒A：私はキーホルダーに賛成です。理由は、みんなの手元に残るからです。

生徒B：私もキーホルダーに賛成です。理由は、バッグとかに付ければ、いつでもすぐに見られて、3年1組のことを思い出せるからです。

生徒C：キーホルダーにみんなが好きな写真をそれぞれ入れるだけだと、思い出の共有ができないと思うので、全体の写真を入れるとよいと思います。

司会：キーホルダーの工夫に関しては柱②で話し合いましょう。

<p>話し合うこと 2 みんなの思い出に残るような工夫を考えよう。</p>	<p>○柱1で決まった内容をもとに、話し合いができるように、黒板記録に見出しをつけるよう指示をする。 ○「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の流れで話し合いを進める。</p>	<p>◎提案理由や実践を踏まえた意見を出したり、他者の意見を聞いたりしながら話し合いを行い、合意形成をしている。【思・判・表】(観察・学級活動ノート)</p>
---	---	---

**事例のポイント②**  
柱②では、生徒の考えを互いに共通理解するために、短冊ではなく、直接板書するようにした。

---

生徒A：寄せ書きはクラスで回して、できるだけ多くの人にもらうのが良いと思います。  
生徒B：卒業した後に、みんなのことを思い出すきっかけになるので全員からもらいたいです。  
生徒C：自分だけ少ないとかあると嫌なので、私も全員からもらうのに賛成です。

---

生徒D：キーホルダーは表にクラスの集合写真、裏に個人で自由に写真を載せて作るが良いと思います。  
司 会：その集合写真は何の写真にしますか。  
生徒E：その写真は何枚か用意して、クラスの全員で投票して決めると良いと思います。  
司 会：その方法で決めるのはどうですか。  
学 級：(拍手)  
生徒F：そうすると、表紙を集合写真、中のページを自由であれば、アルバムの形もできると思います。  
司 会：そのような意見がありますが、キーホルダーとアルバムの形をまとめてもよいですか。  
生徒G：アルバムだと写真の枚数が多くなり、受験もあると時間が厳しいと思うので、Aさんの意見でよいと思います。

○決まったこと 話し合うこと②「思い出に残る工夫」

- ・キーホルダー：表に全員の集合写真。裏には、各個人で自由にデザインして作成。  
集合写真を何にするかは、アンケートで決定。
- ・寄せ書き：色紙(画用紙で作成)や枠を作成し、クラスの全員からメッセージをもらう

<p>話し合うこと 3 役割分担</p>	<p>・話し合いで決まった内容から必要となる役割を確認するよう指示をする。</p>	
--------------------------	---	--

○決まったこと 話し合うこと③「役割分担」

- ・キーホルダー：写真を集める アンケートの作成  
ラミネートをする デザインの考案・作成  
ストラップ付け
- ・寄せ書き：色紙の枠の作成 メッセージの集約

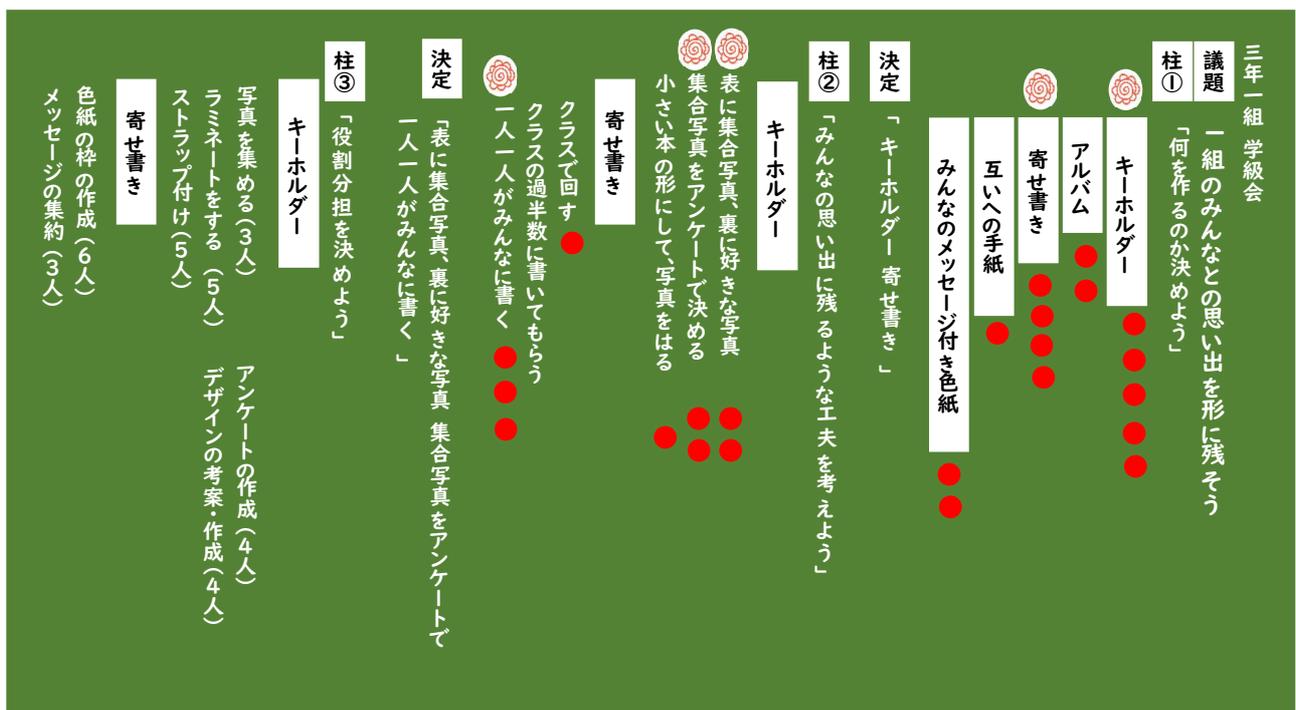
**事例のポイント②**  
決まった役割を誰が担当するのかを、名前のマグネットを使って示し、作業を効率化して見やすくする。 ※マグネットは例示

8 決まったことの発表		
9 振り返りの時間		
10 教師の話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学級会において、学級全体での成長した点や課題点、学級活動委員へのねぎらい、実践への意欲付け等の話をする。</li> </ul>	
11 終わりの言葉		

## 6 事後の活動

日時	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿【観点】(評価方法)
11月5日～18日 (昼休み・放課後等)	○準備 ・決まった内容をまとめ教室内に掲示する。 ・作成するまでの計画、作成するために必要な物を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当で協力して準備を進めるよう助言する。</li> <li>・進捗状況を帰りの会等で報告する機会を設ける。</li> </ul>	◎協働し準備に進んで取り組もうとしている。【主】(観察・話し合いノート)
3学期以降 (昼休み・放課後等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験などもあるため、期限を決め、それまでに各自作成していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が期限を守れるようにする。</li> <li>・話し合いで決まった工夫が実践できるように声掛けをする。</li> </ul>	

## 7 板書計画



※提案理由はICTを活用し、常時表示しておく。

## 8 指導上の留意点

- 学級活動委員は輪番制にしており、学級全員が1回は経験できるよう計画的に進められるようにした。
- 中学3年生であるため、生徒たちに委ねることが多かったが、話合いが停滞した際には、教師が助言を行うこともあった。
- 年度当初は、学級活動委員が学級会の流れを把握できるよう、司会用の原稿を用意した。ただし、原稿があることで進行が固定され、臨機応変さが損なわれる場合もあるため、司会を務める生徒の経験や発達段階に応じて、原稿の作成の有無を判断した（今回は使用せず）。
- 年度当初や1学年での学級会では、小学校の学級会の経験を生かして進められるよう本校で統一している「話合いの進め方」を提示することもある。
- 学年が上がったり、学級会の回数を重ねたりすることで、事前準備の時間を徐々に減らしていくことを目指した。
- 本来であれば金銭のかからない範囲で実施することが望ましいが、生徒の「卒業の思い出を残したい」という気持ちに配慮し、本実践では材料費を学級費から事前に用意することを生徒に伝えた。
- 中学校3年の年度末の議題としては、「学校に感謝の気持ちを伝えよう」といった議題も考えられる。